

令和 2 年度

事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

神奈川県厚木市中町 3 丁目 6 番 17 号

公益財団法人健康予防医学財団

1. 概況

1-1 受診者数の推移

公益財団法人健康予防医学財団（以下当財団）は、平成 23 年 4 月に移行認定を受けた。当期は第 10 期に当たる。

令和 2 年度（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）の年間受診者数は、前事業年度比 106.8%の 34,430 人だった。内訳をみると、人間ドックが前年比 107.3%の 6,246 人と受診者数が増加した。また、生活習慣病健診、定期健診・その他も前年度に比べ増加したが、緊急事態宣言の影響、新型コロナウイルス感染防止対策のために受診者の受け入れ数を制限したことにより、増加率は例年に比べ微増であった。（例年は 10%超）

	令和元年度	令和 2 年度	前年比
受診者数	32,320	34,430	106.8%
人間ドック	5,818	6,246	107.3%
生活習慣病	11,556	12,202	105.5%
定期健診・その他	13,393	14,585	108.9%
婦人科検診	995	927	93.1%
市町村検診	558	470	84.2%

（単位：人）

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響があるなか、新型コロナウイルス感染防止を踏まえ、感染防止策を万全にし、受診者の受け入れ数を制限しながらも、前年度に比べ微増であることは、安全かつ正確に検査を実施することができ、県民に対し広く受診機会を提供できたと考える。

1-2 売上規模と経費

令和 2 年度の売上は、前年度比 103.7%の約 7 億 4,180 万円となった。総合健診（人間ドック）の売上は前年度比約 100.9%の約 2 億 6,890 万円で、一般健診の売上は前年度比約 99.5%の約 4 億 5790 万円だった。

第 1 回緊急事態宣言により、一時的に健診を中止し、宣言解除後も新型コロナウイルス感染防止対策の一環として受診者数を制限しながら健診を実施したが、前年度比では微増となった。経費については感染防止対策に掛かる費用は増加となった。次年度も売上と経費の適正化を図っていく。

2. 健診業務関連部分

2-1 精度管理の状況

日本総合健診医学会の指導のもと、本年度も胸部 X 線や心電図、生化学検査の精度が正常かをチェックした。実施日と結果は以下の通り。（第 1 回緊急事態宣言の影響により、4

月は実施されなかった)

実施機関	実施月	実施内容	結果
日本総合健診医学会	令和2年7月	生化学精度調査	精度管理良好
		血球計算精度調査	精度管理良好
		便潜血精度調査	精度管理良好
	令和2年9月	生化学精度調査	精度管理良好
		血球計算精度調査	精度管理良好
		尿一般精度調査	精度管理良好

2-2 職員の状況

令和3年3月31日現在の職員構成は以下の通り。

職種		人数	摘要
医師：内科	常勤	1	統括院長
：内科	常勤	1	院長
：内視鏡専門医	常勤	1	
：内科	常勤	1	
：内科	非常勤	1	毎週木曜日土曜日勤務
：内科	非常勤	1	毎週木曜日
：内科	非常勤	1	毎週土曜日
：内科	非常勤	1	隔週土曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週月曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週火曜日
：産婦人科	非常勤	1	毎週水曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週水曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週木曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週月曜日水曜日金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週火曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週木曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週土曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	第2週土曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	第4週土曜日勤務
：放射線	非常勤	1	毎週木曜日勤務

看護師	常勤	9	
看護師	非常勤	8	指定日に勤務
診療放射線技師	常勤	4	
診療放射線技師	非常勤	4	指定日に勤務
臨床検査技師	常勤	8	
臨床検査技師	非常勤	8	指定日に勤務
管理栄養士	常勤	1	
保健師	非常勤	1	指定日に勤務
看護助手	常勤	1	
看護助手	非常勤	6	指定日に勤務
事務職員	常勤	24	
事務職員	非常勤	3	指定日に勤務
事務局員	常勤	2	

役員（理事、監事）の状況

役職	氏名	現職
理事長	横須賀 浩二	ヘルスケアクリニック厚木 理事長
副理事長	斐 英洙	ヘルスケアクリニック厚木 統括院長
専務理事	武本 吉功	株式会社バルコーポレーション 代表取締役
常務理事	横田 春樹	ヘルスケアクリニック厚木 医療部長
理事	成澤 勉	ヘルスケアクリニック厚木 事務長
理事	神戸 義人	ヘルスケアクリニック厚木 院長
理事	川原 輝久	

監事	西ノ内 彰	税理士法人 TM 総合事務所
----	-------	----------------

2-3 総合判定の割合

令和元年度の健診結果の総合判定の割合は、A判定が3.0%、B判定が4.1%、C判定が31.5%となった。D～F判定が全体の61.2%と過半数を占めることから、受診者の健康状況の改善をいかにして進めていくのかが重要となっている。

C判定及びD判定が全体の77.5%となることから、未病の段階にいる受診者がかなり多いことが伺えた。神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室未病産業グループとも連携し、未病の研究を実施していくと共に、今後、これらの層を中心に、保健指導の実施やイベントの

企画や情報の発信を行い、さらなる市民の健康増進に注力していく。

令和2年度総合判定	人数	割合
A	1,053	3.06%
B	1,429	4.16%
C	10,836	31.52%
D	15,814	45.99%
E	74	0.22%
F	5,176	15.05%

3. 健康知識普及業務関連部分

3-1 特定保健指導

令和元年度の特定保健指導における初回面談実施件数は、積極的支援142件（昨年度147件）、動機付け支援191件（昨年度132件）で合計433件（昨年度279件）。昨年度対比で155.1%と増加となった。令和2年度から特定保健指導を2名体制とし、当日の面談実施を受診者に促すことで面談実施回数は前年度と比べ、大きく増加となった。特定保健指導に関しては全国健康保険協会の調査では医療費節減の効果があり、国立循環器病研究センターの研究ではメタボリックシンドロームのリスク軽減が科学的に証明されている。特定保健指導に参加することでの効果を踏まえ、受診勧奨対象者も含めて情報提供を強化し、支援実施者を引き続き増加できるように改善していく。

特定保健指導内訳		令和元年度	令和2年度
積極的支援	個別契約	101件	161件
	その他契約	46件	81件
動機付	個別契約	92件	131件
	その他契約	40件	60件

【参考 保健指導を受けた人の感想】

■積極的支援

① 40代 男性

（結果） 体重-5.0kg 腹囲-1.5cm

（コメント） 食事コントロールによる成果を感じ、継続していきたいと感じます。また、丁寧なご指導と日々の目標を設定していただいたことにより食事に対する意識づけができ

たことが大きな要因だと思います。

感謝です。

② 40代 男性

(結果) 体重-4.0kg 腹囲-6.0cm

(コメント) 食事量を減らすと体重が減ることがわかりました。体重が 4 kg減り、ベルトの穴が 2 個分減りました。コーラは極力飲まずに、お茶に変えること、食事量を減らして野菜を多めに食べることを続けて行こうと思います。

③ 40代 女性

(結果) 体重-3.0kg 腹囲-3.0cm

(コメント) カロリーを気にする様になった。今後も食べたものの記録、歩くことを続けていきたい。

④ 40代 男性

(結果) 体重 - 3.3 kg 腹囲-4.0 cm

(コメント) 食生活の改善だけでも、体重を落とせることがわかりました。痩せると高血圧が改善されるような気がします。今後も昼と晩ゴハンはひかえめにしていきたい。

■動機付け支援

① 60代男性

(結果) 体重-4.1kg 腹囲-4.5cm

(コメント) 多少痩せて血圧も下がりました。禁酒や食事量は今後も控えるつもりです。運動もなるべく頑張ります。

② 50代男性

(結果) 体重-1.7kg 腹囲-7.0cm

(コメント) 目標は達成できなかったが 1 年前の数値には戻れた。食事内容を意識するようになった。

③ 40代女性

(結果) 体重 - 1.6 kg 腹囲-1.6 cm

(コメント) 意外と 100kcal 以内のお菓子があることを知れました。見た目のサイズダウンはまだですが。引き続き 100kcal 以内の間食と食事内容には気を付けていきます。運動もとり入れていきます。

3-2 市民向け無料勉強会・セミナー

1. JMS (ジャパンマンモグラフィー・サンデー)

(令和元年 10 月 18 日 日曜日 8:15~15:00)

10 月に開催したジャパン・マンモグラフィー・サンデーは、NPO 法人 J.POSH が推進する、働く女性を対象とした乳がん検診の受診勧奨イベント。血圧や体脂肪測定の無料開放。

3-3 啓発活動

1. 疾患別リーフレット事業

健康診断で得られた情報を分析し、発症率の高い疾患 5 種を抽出。抽出した疾患の啓発リーフレットを作成。自治体、企業、医療機関に配布。

2. 検査ガイドブック事業

一般的に健診施設で行われている検査項目に関するガイドブックを作成。検査の目的、基準値、異常値が出た際に考えうる症状や病名、今後のアドバイスなどを分かりやすく記載。検査の内容や意味を知っていただくことで、健康意識が変わり病気の早期発見、早期治療につなげていくことが目的。自治体、企業、医療機関に配布。

3. AI による健診結果解析システム導入

AI による診断結果解析システムは令和元年 2 月～3 月のテスト運用を経て、今年度から本格的に運用を開始。パーソナライズされた健診結果が導き出すことができ、より細やかな改善指導や支援に役立て、受診者の行動変容に繋げており、予防医学の観点で大きな効果が見込まれる。

4. 大腸がん検診推奨に繋げるシステム構築研究への協力

新型コロナウイルス感染症の影響でがん検診受診率低下が進んでおり、SNS を活用し、大腸がんの検診勧奨から健診結果の通知、さらに精密検査の推奨まで行い、受診促進につながる研究に協力。便潜血検査は郵送での対応が可能であり、SNS を連絡手段とすることで手続きを簡便にし、実用性があるかを検証していく。手続きが簡便になることで受診へのハードルは下がり、県民に対し広く受診機会を提供することにもつながるので、今後もこの様な研究には積極的に協力していく。

以上